

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	大平 英樹	所属	名古屋大学大学院環境学研究科 社会環境学専攻心理学講座
研究集会等名称	公益社団法人日本心理学会精神神経内分泌免疫学研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 47名 (うち認定心理士 1名) 非会員 35名 (うち認定心理士 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>【日本心理学会第 79 回シンポジウム】 目的：ストレスが認知や行動，意思決定に与える影響，およびそのメカニズムについて検討することを目的とした。また，近接領域の研究者と議論を交えることにより，研究会の発展を目指す。</p> <p>成果：日本心理学会第 79 回大会において『認知・意思決定と PNEI』と題したシンポジウムを開催した。動物研究 (領家梨恵先生)，意思決定研究 (山川香織先生)，そして臨床研究 (袴田優子先生) の立場から最新のストレスとの関連性について紹介され，ヒトのふるまいにおけるストレスの役割について述べられた。指定討論者である大平英樹先生からはストレスと認知をつなぐバイオマーカーの限界と可能性について指摘がなされ，ストレス研究の今後の発展について議論が行われた。</p> <p>将来計画：国内学会において，シンポジウムの開催を検討中である。</p> <p>【研究集会】 目的：精神神経内分泌免疫学に関する最新の知見の共有，研究者間の交流を深めることで共同研究を行う機会を促進することを目的とする。また，若手研究者に積極的に研究発表の機会を与えることで若手研究者の育成に努める。</p> <p>成果：平成 27 年 11 月 14 日に第 21 回研究集会を岩手県立大学にて開催した (別紙プログラム参照)。第 21 回研究集会では，動物研究 (川崎勝義先生) やバイオマーカーの開発 (田中豪一先生，三原健吾先生) など多岐にわたる 4 題の研究発表が行われ，精神神経内分泌免疫学における最新の知見についての情報交換が行われた。また，初めての試みとして共同研究企画セッションを設けた。これは研究会を共同研究提案の場として活用し，検体収集や生化学的測定の分担，データセットの共有をすることで研究会活動および国内における精神神経内分泌免疫学研究の活性化を目的としている。フロアからはおおむね賛同をいただき，共同研究に向けて活発な議論が行われた。今後科研費の申請なども前向きに検討する。</p> <p>将来計画：今後は第 22 回研究集会を企画することで，さらなる情報，研究手法・技術の共有化，研究者間の連携を強めることを目指す。また共同研究実現に向けて，HP の整備，ワーキンググループの活動を行っていく。</p>		

研究集会参加者リスト

<研究会名>				
精神神経内分泌免疫学研究会				
研究集会開催日： 2015年11月14日				
	氏名	所属	会員番号	認定番号
1	堀内 聡	岩手県立大学社会福祉学部	会員	
2	井澤修平		会員	
3	原水聡史	花王株式会社 感性科学研究所	非会員	
4	大平英樹	名古屋大学	会員	
5	三原健吾	久留米大学	会員	
6	川崎勝義	星薬科大学	会員	
7	長野祐一郎	文京学院大学	会員	
8	安藤文哉	岩手県立大学大学院	非会員	
9	岡村尚昌	久留米大学	会員	
10	木村健太	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	会員	
11	小崎智照	九州大学	非会員	
12	田中豪一	札幌医科大学	会員	

(様式5)

2016年3月25日

日本心理学会研究会 2016年度会計報告書

研究会名称 公益社団法人日本心理学会精神神経内分泌免疫学研究会

研究会番号 研14018

助成金額 ¥30,000

年月日	項目	金額
2015年9月23日	日本心理学会 シンポジウム謝礼 (領家梨恵先生)	¥14,000 ✓
2015年9月23日	日本心理学会 シンポジウム謝礼 (袴田優子先生)	¥14,000 ✓
2016年3月29日	返金	¥2,000
支出合計		¥30,000